

楽しみながら豊かな自然を 未来につなぐ

近年、マイクロプラスチックによる海洋汚染が問題になっている。企業組合みのぶ地域振興Link300(赤池宏文理事長 組合員7名)では、海なし県の山梨県においても海へ流れ込む河川を有する立場としての責任は重大であると考え、11月24日(水)富士川クリーン活動を実施した。

この活動は、赤池理事長が会長を兼任する本栖湖・富士川ウォーターアクション協議会と協力し、河川流域の自然環境を保護・再生・維持することを目的に、サップ(大きめのボードに立ちパドルを漕いで水面を進むスポーツ)やラフトボート(大型のゴムボート)に乗り、川を下りながら陸からは見えない河川のゴミを回収し、マイクロプラスチックの発生を少しでも減らせるようにと取り組んだ。

以前まで清掃活動に取り組んでいた地元のラフティング業者が廃業したため活動が打ち切りとなっていたが、組合と協議会がその意志を引き継ぎ、前年度から活動を開始した。3年目となる今年は、県議会議員の山田七穂氏と一般から募集したボランティア32名が参加し、楽しみながら清掃活動を行った。

企業組合みのぶ地域振興

Link300



参加者は、普段は立ち入ることのできない場所に水上からアクセスし、河川に降りてゴミを拾い、身近にある自然に触れることで自然環境の保護・再生・維持への意識が高まると同時に自然と一体となることの楽しさを味わうことができた。

組合の運営するキャンプ場では、本栖湖でのカヌーやサップの体験もできる。赤池理事長は「自然を遊び場として事業を展開する立場から、さらには趣味を楽しむ立場から、『自分たちのフィールドより下流にはゴミを流さない』という信念を表明する活動として続けていきたい。また、同時に活動のPRと参加者の増加を実現することで下流域から上流域に向かってこの取り組みの輪を広げていきたい。」と話した。

